

## 道徳の時間学習指導案

指導者 溝上 孝弘

1. 学年 第5学年1組 30名
2. 日時 平成17年6月23日 (木) 第5校時 5年1組教室
3. 主題名 自分の心に誠実に 1 - (4)
4. 本時のねらい

他の人が作った詩を学級文集の原稿に使ってしまった和枝の気持ちを考えることを通して、自分の心に正直に誠実に自分らしく明るく生活しようとする心情を育てる。

5. 資料名 わたしの学級文集 (学研 「のりづけされた詩」 改作)
6. 主題設定の理由

○ 全く陰ひのない、うそ偽りのない生活をしていくことは至難のわざである。しかし、それを志向して努力するところに他者との信頼関係が生まれ、人間として豊かな社会生活が維持されると考える。法にふれなければ多少のごまかしやうそも許されるという風潮がみられる現代であるからこそ、良心に従って誠実に生きようとする心情を養っていく事が大切である。

子どもたちは、他人の誠実な行動に接したとき、心をうたれ、自分もそのようにしたいと思っている。そして誰が見ていなくても、陰ひなたなく行動することが大切であることも理解している。しかし、実際には自分の弱さからほんとうのことを言えなかったり、利害にとらわれて誠実な行動ができなかったりすることも多い。高学年の発達段階においては、自分に対する誠実さが一層求められる。特に自分に対する誠実さが内に秘められるだけでなく、外に向けて発揮されるよう配慮する必要がある。明るいい心を表せることは、自己を向上させ、さらにみんなとともに楽しい生活ができることにつながる。

○ 本学級の児童はクラス替えから2ヶ月がたち、ひとりひとりが学級の雰囲気にも慣れ、よりよい集団をつくっていきこうとしてきている。帰りの会では友だちの長所を認めたり、励ましたりする態度が多く見られる。また一人一人の意見を大切にしていこうとする姿勢も見られる。

「正直」について学級の子どもたちにアンケートを行った。「正直に行動できた経験」「正直に行動できなかった経験」のどちらも全員が「ある」と答えている。「正直に行動することは大切だと思いますか。」の問いも全員が「はい」と答えた。その理由としては「すっきりしない、もやもやする。」「自分のためにならない。」「自分が必要になる。」といった自分自身をより良くしていく問題だという答えが82%であった。また、「おこられる。ばれたらいけない」といった周りの目を理由を書いている児童も9%いたが、「自分だけでなく、人も困る」という周囲とのよりよい関係を理由にしている児童も9%いた。子どもたちは、正直に行動することは大切なことはよく分かっており、そのことが自分自身よりよい成長のために必要であったり、周囲の人々を大切にすることにつながるのとらえている児童も多いことがわかる。

しかし子どもたちの日常の生活場面においては、うそについてその場をのがれよ

うとすることがあったり、相手によって接する態度を変えてしまうことがあったり、見て見ぬふりをする場合も多く見られる。

これらのことから、だれにでもある弱さをふまえた上で、それを乗り越えようとする気持ちが自分を向上させることにつながることを考えさせていくことが今の児童にとって必要であると考えられる。具体的には「自分の心に正直に、誠実に明るく生活することが自分にとって心地よい、そして自分を高め周囲に対してもよりよい人間関係が生まれてくることになる。」という心情を育てていくことをめざして指導していく必要がある。

○ 本資料は、学級文集にのせる詩に他人が書いた作品を使ったことで悩み苦しむ主人公の心の動きを描いている。自分の創作ではないことに対する心の痛みが、やがて主人公を誠実な行為へと導いていく。他者から促されるのではなく、自ら内省し、誠実な生き方を求めるところに視点を置き、構成されている。

指導に当たっては、基本発問において、「書きたかった思いにぴったりの『水平線』という詩を見つけて和枝はどんな気持ちになっただろう。」にし、はじめは使うつもりがなく、いい作品をつくりたいという気持ちからついそのまま使ってしまうという気持ちになっただろうと和枝の気持ちをとらえさせる。そして中心発問において、「和枝さんは今、机の中にある自分の詩を見ながら、揺れ動く心の中でどんなことを考えているでしょう。」と問い、うしろめたい気持ちがある自分と正直でありたい自分の心の葛藤に着目させ、思いに共感させていきたい。また、正直でありたいという思いをより深めていくために、「分からないんだから、わざわざ正直に言わなくてもいいんじゃないの。」と補助発問で揺さぶりをかけることで、それでも自分に正直でありたいという気持ちが高まっている和枝の気持ちに迫っていきたい。

導入では自分たちが今まで書いたなつかしい文集を紹介し、その時の思いを交流することで学習内容につなげていきたい。また発問の部分では実際に文集を見ることで具体的なイメージがつかめ、和枝の思いに共感できるようにしていく。

### 7. 準備物

場面絵 文集

### 8. 活動の流れ

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	留 意 点
導入	1 今までに書いた文集を見る。	なつかしい文集を見てどう思いますか。	○文集を書いた時の思い出を自由に出す。
	2 「わたしの学級文集」を聞いて話し合う。	光子さんとの帰り道、和枝さんはどんな気持ちで詩をつくらうとしているでしょう。 ・思い出にすばらしい詩をつくるぞ。 ・光子にはまけないぞ。	○感情をこめて読み、臨場感を持って、状況を把握させる。

		<p>・詩を書くのは自信がある。  ・みんなの期待にこたえたい。  ・家に帰ってしつかり考えるぞ。</p> <p>書きたかった詩にびつたりの「水平線」という詩を見つけて和枝はどんな気持ちになっっているでしょう。</p> <p>・すてきな詩だ。  ・わたしの書きたい詩はこんな詩だ。  ・少しぐらい使ってもいいかな。  ・このままではいい作品が作れない。  ・ばれなかつたらいい。使ってしまったおろか。</p> <p>文集係に「さすが」とほめられたのにどうして和枝さんはむねがしめつけられる思いになったのでしょうか。</p> <p>・本当は私が書いた作品じゃない。  ・いやな気持ちだ。  ・すつきりしない。  ・人の詩だからちつともうれしくない。  急いで家に帰って、自分の詩を見つめ、心の中が大きくゆれろぐいっている和枝さんは、今心の中でどんなことを考えているでしょう。</p> <p>・どうしてあんなことをしてしまったのだろう。  ・ばれてしまったらどうしよう。  ・もう文集の印刷はすんでしまった。どうにもならないのかな。  ・このままではすつきりしない。  ・このままでは自分の文集じゃない。  ・正直にみんなや先生に言わないといけない。  ・自分の詩をのせていきたい。  文集を開きはじめて和枝さんはどんなことを考えているだろう。</p> <p>・あのままだったら絶対に後悔した。  ・やつと気持ちがつきりした。  ・正直に本当のことをいってよかった。  ・これがわたしにとつての本当の文集だ。  ・学級の人みんなにも自分がかんばつて作った詩を見てもらいたい。</p>	<p>○最高の詩をつくろうとはりきつている和枝の気持ちをとらえさせる。  ○はじめは使う気持ちがあなかつた和枝の気持ち揺れ動いている気持ちを考えさせていく。</p> <p>○後悔している気持ちをとらえさせる。</p> <p>○和枝のゆれ動く気持ちに焦点をあて、うしろめたい自分と正直でありたい自分の心の葛藤に着目させる。</p> <p>○自分の気持ちに誠実に行動したことでの和枝の気持ちよさ、満足感に共感させる。</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話</p>	<p>先生の話を読みましよう</p>	<p>○余韻を残して終わる。</p>